

都市計画道路 1・3・2号酒田遊佐線環境影響評価書に対する環境大臣意見

1. 飛砂防備及びクロマツ林の保全等について

クロマツ林は重要な植物群落であるだけでなく、飛砂防備、景観資源、歴史的資産、学習の場等、多くの機能を有し、地域の公共的財産として非常に重要である。

計画道路はクロマツ林の一部を通過することから、路線位置選定等における環境の保全の配慮に係る検討の経緯を評価書に示すとともに、改変にあたっては、以下の措置を適切に講じる必要がある。

- (1) クロマツ林の伐採に伴う飛砂への影響を回避、低減するため、また、路線に面するクロマツ林へ及ぼす影響を低減するため、道路法面へのクロマツ植栽及び防風柵の設置をできるだけ早期に実施し、これらについて適切に維持管理すること。
- (2) クロマツ林が学習林として利用されている区画の事業実施に当たっては、計画道路による改変や分断による学習林活動への影響を可能な限り低減できるよう、学校関係者等と十分協議、調整すること。

2. 希少種について

- (1) 事業実施区域周辺では、数箇所でおオタカの営巣が確認されていることから、事業の実施に当たっては、専門家の指導・助言を得ながら、生息状況等について事後調査（工事実施前及び実施中のモニタリング調査）を行い、必要に応じて適切な環境保全措置を講じること。
- (2) 橋梁工事等が予定されている河川には希少な魚類等が生息しているだけでなく、漁業資源としても重要なサケが遡上していることから、工事に当たっては流水部での仮締切りを行うなど、濁水の発生を極力抑えるとともに、排水の状況に応じて、濁水やアルカリ排水に対する処理施設を設置し、適切に処理を行うこと。

以上について、その旨を評価書に記載すること。